

文化資源6選（栃木西部）

①	名称	出流山満願寺	場所	出流町
	選考理由	県指定の本堂だけでなく、山門、鍾乳洞、自然林が市指定となっており、大変貴重であるため。		
	概要	<p>本堂（大御堂）は昭和51年、建造物の県指定文化財となる。建立は宝暦15年（1765年）頃と推察され、方五間の正方形の建物で、内部は内外陣に分かれた作りとなっている。構造、手法とも本格的な仏殿様式で壮大な規模と江戸時代後期の装飾手法が特徴である。</p> <p>山門は昭和52年、建造物の市指定文化財となる。建立は享保20年（1735年）と言われている。間口8.3m、奥行5m、軒高6m、単層入母屋造三手先銅板葺の剛健な建造物で、市内でも古建築物の一つである。両側に鎮座している金剛力士も堂々としていて立派である。</p> <p>出流鍾乳洞（満願寺奥の院）は昭和36年、天然記念物として市の指定を受ける。満願寺の奥の院拝殿の中に拝される鍾乳石から成る自然仏で高さ4m余で古来十一面観世音の後姿として拝まれた。その昔、下野国司若田氏高郷の奥方が子宝に恵まれなかったのを嘆かれ、この十一面観世音に祈念して授かった一子が後の勝道上人であった。今も子授け観音として広く聞こえている。</p> <p>自然林は、昭和47年、天然記念物として市の指定を受ける。満願寺の境内から奥の院の更に奥までの杉の大木がそびえ立つ杉林で、樹齢100年を越える自然林である。</p>		
②	名称	皆川城址 皆川家ゆかりの地	場所	皆川城内町
	選考理由	皆川城址をはじめ、皆川家ゆかりのもの多きが、市指定となっているため。		
	概要	<p>【慈眼山金剛寺】</p> <p>①【皆川家歴代祖廟】 会津田島より移封し、第二次皆川氏の祖となった長沼秀宗から現在に至るまで、皆川家十八代の当主と奥方の墓地がある。戦国から江戸時代を通じて、一代も欠けることなく埋葬されていることは、全国的にも珍しい。</p> <p>②【皆川広照着用具足】 現存する南蛮型具足の中でも独自の形態である。入手経路は不明だが、家康公より拝領したとされる。</p> <p>【皆川城址】 標高147mの山城で、その山の形から『ほらがい城』とも呼ばれている。栃木の基を築いた皆川氏の居城。室町時代の応永元年（1394年）皆川秀光の手により築かれ、皆川広照が、徳川家康の怒りをかい改易になる慶長14年（1609年）まで、最大で7万石を領有した皆川氏の居城であった。</p>		
③	名称	星野遺跡	場所	星野町
	選考理由	市指定の遺跡であるとともに、出土物が古い時代のものであり、大変貴重であるため。		
	概要	<p>昭和41年、史跡として市指定文化財となる。昭和40年の発掘調査で、縄文時代前期（5～6千年前）と中期（4～5千年前）の地層から7戸の住居跡や倉庫跡が見つかった。現在はその内前期の居住跡1棟、中期の居住跡1棟、中期の倉庫跡1棟の3棟を復元して一般に展示・公開しており、周辺も憩いの森公園として整備してある。</p> <p>また近くには、星野遺跡地層たんけん館があり、星野遺跡とは場所は若干離れてはいるが、同時期に発掘調査が行われた。約10mの深さまで地層を垂直に掘った断面が見られる。長い年月かけて火山灰や軽石が降り積もってきた関東ローム層が良く理解できる。</p>		

